教育広報　県南

学ぶことと考えること

塙町教育委員会教育長　藤　田　　充

私は、故小林秀雄の講演集（ＣＤ）をここ５、６年、暇を見てはよく聴いています。感想は「楽しい」に尽きます。教育に関する示唆が豊富で深く、繰り返し聴いています。車を運転しながら、列車内ではイヤホンで、風呂に入りながらＭＰプレーヤーで。

その中で、「古事記伝」を著した本居宣長が行った「考える」という言葉の解釈についての紹介がありました。教育の在り方について思い当たることがありましたので、私なりに考えたことを述べます。

宣長によると、「考える（かんがえる）」という言葉は、「か」と「ん（む）」と「かう」という言葉から成り立っている。「か」は意味のない言葉、「ん（む）」は「み（身）」の古い言葉、「かう」は「交（こう）」ということで、「考える」というのは「自分の身が交わる」ということである。つまり、「考える」ということは、自分が対象とする事象に向かい合い、その事象と十分に交わるということであると言います。「考える」ことは、正に学習の在り方の本質に関わる行動であり、活動です。

一方、「学ぶ」という言葉は、「まねること」からきていると言われます。今まで、子ども達の学習は、あまりにも「学ぶ」方に偏り過ぎていたのではないか。教師は、「学ばせる」意識が強すぎたのではないか。子どもの「確かな学力」の育成が問われ各種調査や検査が盛んに行われ、教育の歪み等が顕在化する中、将来を見据えた児童生徒の学習の在り方はどうあるべきなのかを再考し、現状改善を図っていく必要があります。

まず、授業で、日常の学習で子どもが「考える」保証が十分に担保されていたかを振り返る必要があります。「考える」ことは、子どもが、課題に正対し、解決に自ら立ち向かうということです。このプロセスがなければ、真の「思考力（判断力も表現力も）」は育たないし、意欲に通じる達成感にもつながらないであろうと思います。「考える」場面を数多く準備し、子どもの「考える」学習を支援し続けることが大切です。

今年度の全国学力学習状況調査で正答率が大きく上がった県では、「Ｂ問題（活用力）」に対する学習を多く取り入れた結果、「Ａ問題（知識・理解）」についても向上したという報道がありました。つまり、宣長が言う「考える」場面を重視したことの表れだと思います。そこには教師一人一人の指導観、児童観の大きな転換が必要だったものと推察します。住民から学校教育を負託された私たちは、勇気をもって、児童観を転換し、大胆に授業を改革し、「考え続ける」子どもを育成することが期待されています。

受賞おめでとうございます　～平成２６年度教育・文化関係表彰～

（敬称略）

文部科学大臣表彰

○優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進
白河市幼・小・中・高 PTA の集い

○優れた「地域による学校支援活動」推進
西郷村放課後子どもプラン

○優良 PTA 文部科学大臣表彰　白河市立五箇幼稚園 PTA

○子どもの読書活動優秀実践校　鮫川村立青生野小学校

○地方教育行政功労者表彰
中島村教育委員会教育委員長　水野谷剛夫

○優秀教職員表彰
福島県立白河高等学校教諭　菊地　良尚
西郷村立小田倉小学校教諭　薄葉　征子

功労者知事表彰

○保健衛生表彰　矢祭町　歯科医　古張　武

県教育委員会表彰

○文化財保護功労者表彰　前塙町文化財保護審議会長　藤田　佳男

○優秀教職員表彰
白河市立釜子小学校教諭　仁科　篤弘
西郷村立羽太小学校養護教諭　髙田　智子

○永年勤続教職員表彰
小・中学校２６名　県立学校１２名　教育事務所１名

○教職員研究論文
特選　鮫川村立青生野小学校
入選　矢祭町立関岡小学校　矢祭町立内川小学校
矢吹町立矢吹中学校

○食育推進優秀校表彰
優秀賞　白河市立五箇小学校
優良賞　白河市立大信中学校　西郷村立川谷中学校

○ふくしまっ子ごはんコンテスト学校賞
白河市立白河第五小学校　塙町立笹原小学校
白河市立みさか小学校　矢祭町立関岡小学校
西郷村立小田倉小学校　白河市立表郷中学校
西郷村立羽太小学校　塙町立塙中学校
矢吹町立矢吹小学校

県学校給食会表彰

○学校給食優良団体表彰　矢吹町立善郷小学校

日本学校保健会表彰

○健康教育推進学校　優良校　白河市立五箇中学校

県学校保健会表彰

○学校保健優良学校　白河市立五箇中学校

○学校保健功労者
学校薬剤師　白河市立東中学校　有賀　裕子
養護教諭　白河市立みさか小学校　箭内　尚子

県学校歯科保健優良校表彰

優秀賞　白河市立信夫第二小学校　西郷村立米小学校
西郷村立羽太小学校　白河市立大信中学校

福島県歯科医師会表彰

第１７回よい歯の幼稚園表彰　西郷村立西郷幼稚園

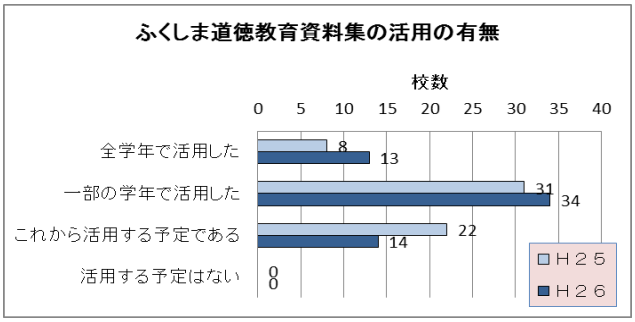
夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進

～学校教育課　平成２６年度事業の成果～

「今だからこそ大切な心を考える」

今年度、県南教育事務所では「震災の教訓を生かした『いのち』や『家族愛』、『地域とのきずな』を大切にする道徳教育の推進」を掲げ、各学校においても積極的な道徳教育の実践がなされてきました。

特に、ふくしま道徳教育資料集「生きぬく・いのち～第一集～」「敬愛・つながる思い～第二集～」においては、道徳の時間の資料として多くの学校で活用されました。今後、「郷土愛・ふくしまの未来へ～第三集～」も含め、三部作の活用をお願いいたします。福島に誇りを持ち、人とのつながりを大切にしながら、たくましく生きる子どもたちを育てていきたいと思います。



「確かな学力の向上」

２月３日（火）に域内学力向上担当者等研修会を開催しました。まず、本年度の「つなぐ教育」推進地域を代表し、矢吹町立矢吹中学校の松本聡二教諭、塙町立塙中学校の本多由嘉教諭が実践発表を行いました。学校と学校、家庭、地域とを『つなぐ』ことを大切にし、ＴＶ会議システムの有効活用、「学びの手引き」の作成、望ましい学習・生活習慣を明確にした「パンフレット」等を全家庭に配付し、啓発を図るなど、学力向上に向け工夫された取組が紹介されました。

次に、RPDCA のサイクルを生かした学力向上マネジメントシートの検証、さらに、各学校の課題に対する手立てを見出すことができるよう「ファシリテーション・グラフィック」の手法を用いて、熱心な協議が行われました。

□協議での課題例－「少人数での学び合いのスタイル」「個に応じた支援の工夫」「言語活動を意識した授業」「家庭学習の充実」「授業を組織するための教材研究」等

□課題解決に向けての有効な手立ての例－「課題の工夫」「上位児に対応した練習問題」「子どもの思考が残る板書」「教師のコーディネート力」「ほめる、認める」等

子どもたち一人一人の夢の実現のために、短期的、長期的なスパンで、より効果的な実践をお願いします。

「健やかな体の育成」

県南域内の各小学校では、改訂された「運動身体づくりプログラム」を活用し、体育科授業の充実が図られています。また、中学校、高等学校では、保健体育科教師の専門性を発揮するとともに、地域の指導者の協力を得た授業や部活動における指導が効果を挙げています。

その結果、「平成 26 年度福島県体力・運動能力調査」では、学年別、男女別の約８割の項目で全国平均(平成 25 年度)を上回った高等学校がありました。中学校、小学校でもそれぞれ、約７割、約６割の項目で全国平均を上回っている学校もあります。

しかし、県南域内児童生徒の体力の現状には、まだ課題もあります。小学校５年生と中学校２年生で実施した「全国体力・運動能力等調査」では、県南の平均が全国平均を上回った項目は、小学校５年女の「ソフトボール投げ」、中学校２年女の「上体起こし」「５０ｍ走」の３項目でした。

小・中学校各校における「全国体力・運動能力等調査」の結果は、小学校５年生、中学校２年生だけの実態ではなく、全学年の実態としてとらえなければなりません。課題の改善のためには、各校の実態に応じて作成していただいている「体力向上推進計画」に基づいた継続的な実践が必要です。

「特別支援教育の推進」

県南特別支援教育連携協議会

１月２９日（木）に県南特別支援教育連携協議会（担当者会）を開催しました。今回は、西郷村教育委員会の関根隆指導主事より、「西郷地区特別支援連携協議会の取組」について紹介をいただきました。グループ協議による情報交換や授業参観、研修会等を重ねる中で、幼・保・小・中・関係機関の縦横の連携が図られてきていること等、他市町村においても参考にできる取組を紹介いただきました。今後も支援体制整備を進めるための手がかりとなるよう、各市町村の取組を共有できる機会を設けていきたいと考えます。

校内支援体制の充実に向けて

各園や学校においては、校内委員会を計画的に実施したり、研修の機会を設けたりする等、取り組まれています。また、支援の必要な子ども達のケース会議を実施し、支援策を共有して組織的に対応する学校も増えてきています。支援策については、「個別の教育支援計画」に記入し、一貫した支援を行えるようにすることが大切です。新年度を迎えるに当たって、「個別の教育支援計画」を活用し、支援を確実に引き継ぎ、子ども達が新しい環境に円滑に適応できるように、校（園）内体制で支えていきましょう。

社会教育推進のための主な重点事業

～総務社会教育課　平成２６年度事業の成果～

「親子の学び応援講座」モデルＰＴＡの実践

本事業は、各校ＰＴＡの課題解決を目指した家庭教育講座の企画及び講師謝金、旅費、託児専門員の謝金等の支援をするものです。どの講座も充実した内容で、参加された方々から好評を得ました。

今年度のモデルＰＴＡの講座テーマ、講師を紹介します。

＜西郷幼稚園：子育てに絵本を＞

○小田倉小学校ＰＴＡ　**「ネット・スマホの落とし穴～子どもの未来を守るために～」**

講師：茨城県メディア教育指導員　矢野　さと子　氏

○西郷幼稚園ＰＴＡ　**「子育てに絵本を」**

講師：福音館書店絵本研究室室長　小林　竜哉　氏

○棚倉小学校父母と教師の会･棚倉町立学校ＰＴＡ連絡協議会　**「男の約束～４６１個の弁当と親子の絆～」**

講師：ミュージシャン猪苗代湖ズ　渡辺　俊美　氏

○青生野小学校ＰＴＡ**「親子で体験ニュースポーツ教室」**

講師：さめがわスポーツクラブ　阿久津　光市　氏

○ひがし幼稚園ＰＴＡ　**「子どもと向き合うために」**

講師：家庭教育インストラクター県南の会　清水　国明　氏

学校・家庭・地域連携サポート事業

～学校支援実践研修会　平成 26 年度の取組～

未来を担う子どもたちを健やかに育み、学校・家庭・地域住民等、地域全体で教育活動を支援する体制づくりを目的とし今年度新たにスタートした事業です。域内においては、学校支援事業及び放課後支援事業を実施している白河市、西郷村、棚倉町において開催され、延べ１１１名の学校支援・放課後支援等に関わる方々が、取組の実施状況を見学し、実践を学ぶとともに情報交換による研修が行われました。

今年度は、先進的な放課後子ども教室の情報共有を図るため、実施状況についての各実施市町村コーディネーターによる実践事例発表と、各子ども教室においてすぐにでも活用できる実践研修を中心に行いました。

※実施された内容

第１回　おのだなかよし教室　「キンボール」実技研修
第２回　棚倉子ども教室　講話･実技「子どもたちとの遊び」
第３回　西郷村放課後子ども教室　「ポテトまんじゅうづくり」

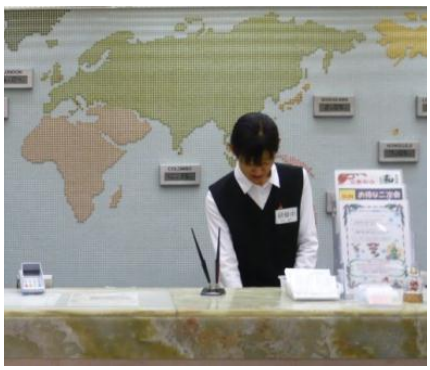
「放課後支援：キンボール実技研修」「学校支援：ポテトまんじゅうづくり」

鮫川村立鮫川小学校

教諭　鈴木陽子

● 企業体験研修を振り返って ●

大きな不安と緊張でスタートした３ヶ月間の企業体験研修。終わってみればあっという間で、違った視点から教職を見つめ直し、改めて大切なことに気づくことができた。一つ目は、「組織で動く」ということ。ホテルはシフト制の勤務なので、みんなで一日の仕事を引き継ぐことになる。自分の役割を確実に果たして引き継ぎをし、情報を共有化することの大切さを感じた。「組織で動く」という意識を今後も大切にしていきたい。二つ目は、その日勝負だということ。ホテルの接客業務は、その時その時が勝負の仕事で、目の前にいるお客様に対して、また明日というわけにはいかないと実感した。これは授業に通じると思う。もっと１時間１時間を大切に指導しなければいけないと反省した。三つ目は、日々研修、プロ意識だ。サンルート白河の方々は、フィロソフィー研修、毎日の業務日誌、施策の実行など、現状に満足することなく、日々向上心をもってホテル経営に尽力されていた。そのプロ意識には、尊敬の念を抱いた。教師という仕事は、成長や結果がすぐには見えにくいところがあるが、ホテルの仕事は、その日の売り上げが数字としてはっきり出る。日々研修して自分を高め、プロ意識をもって仕事に当たらなければいけないと思った。貴重な研修の機会を与えてくださった多くの方々に深く感謝したい。



今年度を振り返って

「子どもが見える幼小連携」

矢吹町立三神小学校
校長　渡邊　豊則

１２４名の子ども達に「笑顔と夢」をと思い、先生方と取り組んできた１年間でした。

本校は、三神幼稚園が隣接しているので、毎月のように共催行事が組まれています。幼稚園と一緒に撮る「全校写真」に始まり、最後の１日体験入学まで１０日程の交流があります。そのおかげで子ども達は４月の入学式以降、みんな小学校に楽しく通っています。これも今までの連携の中で、お兄さんお姉さんとの交流が培われてきた賜であります。これからもさらに良い方法を考え、特色ある連携を深めていきたいと思います。

「子ども達のために」

白河市立白河第四小学校
教頭　菊地　健児

「教頭先生おはようございます。」登校してきた子ども達が、元気にあいさつをして教室に向かいます。

私が新任教頭として赴任した白河四小は、春にはたくさんの小鳥の声が聞こえ、夏には虫とりができる素晴らしい環境にある学校です。この学校で一年間、先生方や保護者の皆さん、地域の方々から多くのことを学びました。教えられ、支えられて教頭として過ごすことができたと思います。白河四小の子ども達の、よりよい成長のために何ができるのか、常に自問自答しながら、今後も教頭として邁進していきたいと思います。

「新採用一年を振り返って」

福島県立光南高等学校
教諭　坂本　恵

光南高校に着任して感じたことは、生徒たちの学習意欲が高く、自分たちの目標をしっかりと持っていることです。また、部活動へ積極的に取り組む姿も印象的でした。そのような生徒の姿から、私は、教員として常に学ぶ姿勢を忘れず、一人でも多くの生徒に自分の知識と経験を伝えられるよう努力していきたいと思いました。

この一年、様々な機会に、先生方から懇切丁寧なご指導と励ましのお言葉を頂きました。多くの方々から支えて頂いた感謝の気持ちを忘れず、今後も教員としての自覚を強く持って臨んでいきたいと思います。

「　拓　魂　」

西郷村立川谷中学校
校長　半沢　一寛

川谷小・中学校は、戦後の昭和２０年秋、川谷地区に入植した先人達が、「開拓は、教育に始まり教育に終わる」との高き理想を掲げ、旧陸軍兵舎の一部を教室として出発しました。少人数のよさを最大限に生かし、きめ細かな学習指導による学力向上はもとより、生徒一人一人が様々な経験ができる学校です。そのような学校で、思う存分学校経営ができることに感謝するばかりです。今後も、地域に今なお脈々と受け継がれている開拓の魂と、熱き思いに責任の重さを感じながら、「熱意」「誠意」「創意」を持って、教職員とともに歩んでまいります。

「生徒の自主性の育成をめざして」

福島県立修明高等学校鮫川校
教頭　永田　斉寿

私が赴任した修明高等学校鮫川校は、小規模校である利点を生かし、個々の生徒に応じた学習および生活指導を行っています。教育目標の一つに「自主的・意欲的な態度を養い、心豊かで創造力に富んだ人間を育成する。」とあります。鮫川校では、毎朝、生徒会役員を中心に朝の挨拶運動を自主的に行っており、先輩から後輩へ良き伝統が引き継がれています。教頭の責務として、教職員が生徒の自主性を大切にして変化の激しい現代社会に対応できる人材づくりをできるように、良き教育環境づくりに努めていきたいと考えています。

「初任者としての１年を振り返って」

福島県立西郷養護学校
教諭　仲野　純

どんな子どもたちと一緒に勉強することになるのだろうと、期待と不安の入り混じった気持ちで４月に本校に着任してから１年。初めは様々な障がいを有する児童たちとどのようにかかわれば良いのか、悩む日々でした。私が大切にしたのは、「教師として笑顔を大切にする」ことと、「児童たちが楽しみ、集中して取り組む姿を見たい」という２つの思いでした。日々の研修は大変でしたが、指導教員や諸先輩方に支援を受け、少しずつ児童と笑顔の関係が築けてきました。今後もこの１年の研修を生かし、児童たちの豊かな成長を育みたいと考えます。